



World Rugby Global Law Trials

日本協会説明資料（第2版）

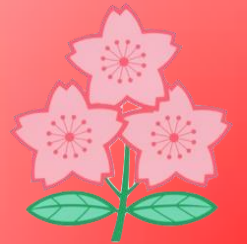


2021/7/30

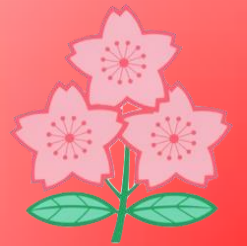
(公財) 日本ラグビーフットボール協会 技術部門

目的と展開

- 2021年8月1日より、5つの項目について実施する。
- いずれもプレーヤーウェルフェアを強化することを目的としている。
- 試験的に実施した結果をもとに、来年正式採用するかを決定する。



50/22



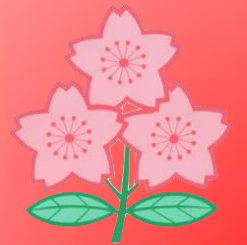
安全性

- バックフィールドにプレイヤーを割かなければならなくなることで、ディフェンススピードを遅くしたり、コンタクトを減らしたりして、危険なコンタクトを減らすことができるのではないか。



競技規則

- 自陣から蹴ったボールが直接でなく相手 22m 内でタッチにでた時には、蹴ったチームのラインアウトで再開する。



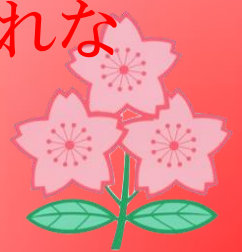
「自陣からキックした」

自チームのパス、キック、ノックなどで自陣に戻した場合には、50/22ではなく通常のキックとして扱う（直接でなくタッチになれば地域は得られるが、相手ボールでのラインアウト）

ただし、自陣に戻したのち、タックルが起きる、ラック、モールが形成されれば、50/22が適用され、キックしたチームのラインアウトの再開になる。

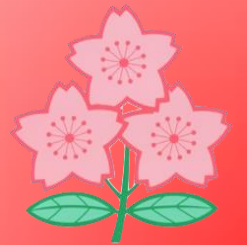
22m以内からキックしたボールが直接タッチに出ても地域を得ることのできる場合と同様に考える。

キックオフ、または、いかなる形であれ試合再開のキックには適用されない。





3 事象とも、試験的競技規則ではキックしたチームのラインアウトで再開されることになる。



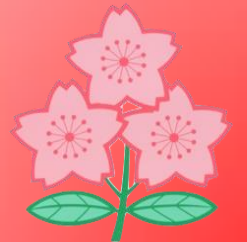
50/22 (WR回答)

質問;ハーフウェーライン中央でのスクラム(キックオフのオプションによる)から再開された場合、50-22は適用されるのか。

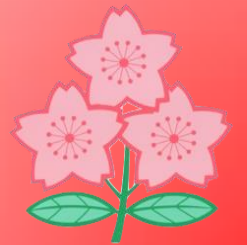
(ハーフウェーラインからの再開は自陣での再開と考えるのか)

回答;はい。適用されるべきであり、50:22はハーフウェイ上のスクラムにもあてはまります。

ハーフウェイ上のスクラムについては、どちらのチームもボールを自陣側に取り戻そうとはしないでしょ。



GOAL LINE DROP OUT



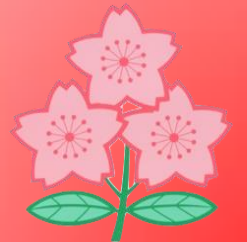
GOAL LINE DROP OUT

以下の場合には、スクラムや22mでのドロップアウトでなく、インゴールドロップアウトで再開する。

- 1) 攻撃側のプレーヤーによってボールがプレーされた、または、インゴールに持ち込まれ、相手側のプレーヤーによってグラウンディングできない状態になった（ヘルドアップ）、またはデッドになった（ボールをインゴールから蹴り出す、持ち出す）。
- 2) キックオフ、得点後の試合再開のキック、ドロップゴール、または、ペナルティキックを除く攻撃側のキックが、防御側のチームによって自陣のインゴール内でグラウンディングされた。
- 3) 攻撃側のプレーヤーが、相手陣のインゴール内でノックオンした。

競技規則 世界的試験実施ルール

第12条 11と12の文言及び日本語翻訳については確認中



GOAL LINE DROP OUT

ドロップアウトを行うチームは、ゴールライン後方の任意の地点からキックを行うことができる。

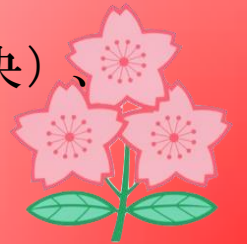
キックするプレーヤーよりも前方に位置してはならず、後方からキックを追わなければならない。

ボールは5mに達しなければならない。

キック行う相手チームは、5mより前方に位置することはできない。

ボールが5mに達しない場合は、キックのやり直し、GLから5m中央でのキックを行った相手側チームの投入スクラム、の選択となる。

ボールが直接タッチに出た場合には、1) キックのやり直し、2) スクラム (GLから5m中央)、3) ラインアウト (5m LO)、4) クイックスローイン、の選択となる。



GOAL LINE DROP OUT (JRFU共有)

ゴールラインドロップアウトの時ダイレクトタッチになった場合、再開方法のオプションでラインアウトを選択した時の再開ポイントは5mでよいか？

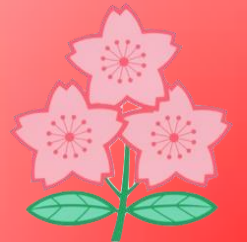
【回答】 GLから5mのラインアウト、攻撃側投入

攻撃側ボールキャリアがインゴールでグラウンディングする前にデッドボールラインを越えてしまった場合もゴールラインドロップアウトで再開か？

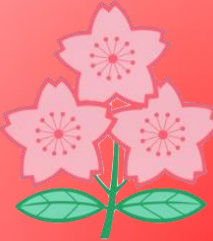
【回答】 22mドロップアウトでの再開

キックしたボールはゴロでも5Mを越えればOKか？

【回答】 キックオフ時と同様に考えるべき、達すれば良い。



Flying wedge



Flying wedge

Mini scrum

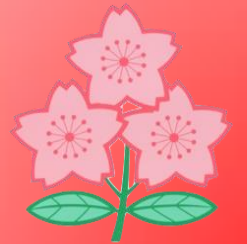
- 1) サポートするプレイヤーが2名以上付いて、スクラムのように進むことについて反則とする。
- 2) 1名がサポートすることは、容認する。



2 men latch (mini scrum)



1 man latch (pod)



Flying wedge (WR回答)

状況;

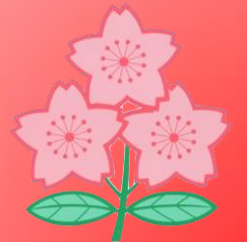
ラインアウトでモールを組もうとボールをキャッチしたプレーヤーの両サイドにバインドしたが、相手がモールの形成を放棄し、コンタクトしてこなかった。

質問;ボールキャリアーを先頭にサイドに付いたまま進む事はできるか。

回答;もし、ボールが先頭にあり、プレラッチングしているプレーヤーが1名だけならば、できます。

質問;ボールキャリアーを先頭に相手が入ってくるのを前進せずに待つことは可能か。

回答;はい、可能ですが、それをする理由がありません。



Flying wedge (JRFU見解)

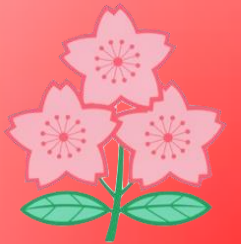
・3人がバインドではなく、ジャージを掴む程度(力は加わっていない)の場合も反則となるか?

また、腕をつっかえ棒のようにし力を加えている状況は反則となるか?

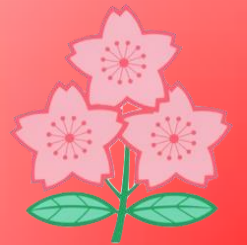
【回答】プレラッチとはバインドしていることを指すので、いずれも反則とはならない。

・ボールキャリアを含め3名がバインドして前進し、相手タックラーとコンテストする瞬間に攻撃側3名のうち1名が味方を前方に押し出しバインドを外した場合はプレーオンか?

【回答】ボールキャリアーを押し出す行為は危険なプレーとなります。



1-Player pre-latched



1-Player pre-latched

Latcher (ラッチャー)

サポートするプレイヤーが倒れ込むプレーも散見され、正当なコンテストを阻害している事象がある。

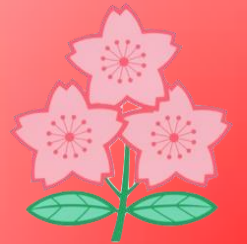
レフリーはコンテストを阻害しているのか、コンテストは正当に行われたのかを見極めなければならない。



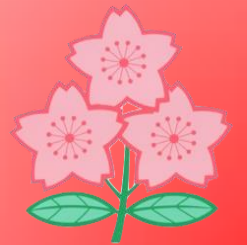
倒れ込んでいる



プレーオン



Cleanout and the safety of the jackler



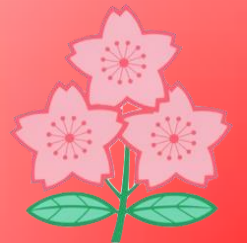
Cleanout and the safety of the jackler

ジャックラー (Jackler) とは、

タックラーと同じチームのタックルに最初に到着したプレーヤーをいう。ボールを直接争奪するためには、立ったままでいなければならない。その前にタックルに参加していた場合は、ボールを争奪する前に、明らかにボールキャリアーを放していなければならない。

ラックの争奪からジャックラーを排除することはできるが、体重をかけたり、相手の下肢を狙ったりしてはならない。

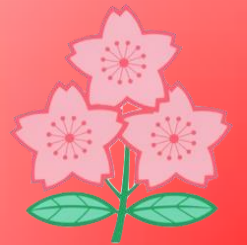
注意；英文では、Lower limbs とあり、下肢と訳される部分と、ひざまたは膝より下と訳されている部分があり、確認中である。



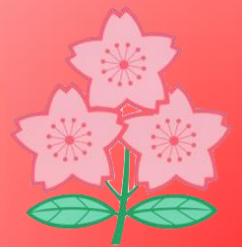
Cleanout and the safety of the jackler

・ 下肢を狙ったプレーというのは、相手の足を持ち上げる行為や足を掴んでテイクアウトした場合も含まれるのか？それとも痛めつけるように狙ったコンテストのみが反則なのか？

【回答】 痛めつけるような行為を指すとしています。



SEVENS



SEVENS

- 1) TMOがある大会においては、インゴールジャッジを置かなくてもよいことになる。（オリンピックでは不採用、インゴールジャッジを置く）
- 2) 延長戦になった場合は、入れ替えをもう1回追加する。（オリンピックでは採用、**本年度の国体でも採用する**）

